

=====

としまコミュニティ大学ニュース

(2020.5.25 発行)

=====

こんにちは！としまコミュニティ大学です。

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、開講を見送らせていただいております。

開講の時期が決まり次第、ご案内いたします。

外出することや人との接触の制限がある状況が続いていますが、学びを継続することはできます。

そこで今回は、「今この大変な時期だからこそ学ぼう」をテーマに、としまコミュニティ大学で登録して学んでいるマナビト生による、おすすめ本と書評を約 200 字で書いて紹介します。

本の世界によろこそ！

▼今の社会を理解するために▼

『人類と病 国際政治から見る感染症と健康格差』詫摩佳代著 中央公論新社（新書）2020年

「感染症、ウイルスに国境はなく、拡大する。この危機のなか、感染拡大阻止のための協力体制を巡り、WHO、米国、中国が互いの動きをけん制しあっている。本書も指摘していることだが、いま改めて気づかされるのは、国際保健が国際政治とは切り離せないという現実。自分たちの健康を国際関係の中で考えるための必読書。」（寄稿：さとう）

▼仮説と検証の繰り返しでみえてくるもの▼

『仮説思考 BCG流 問題発見・解決の発想法』内田和成著 東洋経済新報社 2006年
ボストンコンサルティングで20年以上活躍した著者は、情報洪水に溺れないで仕事をスムーズに進める為に仮説思考を推奨。それは手元の情報から全体像をつかみ、新しい情報・分析を繰り返して問題解決するというものです。網羅的思考では情報過多で意志決定が遅くなり、アクションにつながりにくいようです。サッカーの元オフト監督の試合予測は仮説思考から生まれていたそうです。行き詰っている問題に是非適用してみたいです。（寄稿：トロ05）

▼免疫力がキーワード▼

『人の健康は腸内細菌で決まる 善玉菌と悪玉菌を科学する』光岡知足著 技術評論社
2011年

「世間では今、新型コロナウイルスが吹き荒れている。コロナは容赦なく人の命を奪い去っていく。マイシンのような治療薬も BCG のようなワクチンも今は無い。唯一頼りになるのは、人が持っている自己免疫力である。この本はその自己免疫力についてのレポートである。筆者は腸内細菌研究分野のパイオニアで、60 年来の研究から自己免疫力を高めるために、何をすべきかを分かり易く具体例を示して解説している。今のような大変な状況だからこそ、この貴重な情報を皆で共有し実行に移せば、きっと強敵のコロナの猛威から身を守るに違いない。さあ皆さん！自己免疫力の 6 割を担っている腸に美しい腸内フローラを咲かせて、新型コロナウイルスに立ち向かいましょう！」（寄稿：くぼた）

▼危機的状況下で考える▼

『革命前夜』須賀しのぶ著 文藝春秋社 2015年

コロナにより世界中が混乱している今から、30 余年前の物語。日本が平成になった日に、バツハに憧れ自分の音を求めて、東ドイツに留学したピアニスト眞山。物資は欠乏しているが、音楽は豊かな国で、才能ある留学生と交流する。冷戦下の国は監視社会だが、抑圧と監視からは何も生まれない。自由を願う人々により、ベルリンの壁崩壊。音は最も原始的なもの、人の本能に突き刺さるもの。作品の通底に流れる音楽が激動の時代を映し出す。（寄稿：sanko）

▼この時期に出会えたこの本に感謝▼

『あの素晴らしき七年』エトガル・ケレット著 新潮社（新潮クレスト・ブック）2016年

イスラエル在住の超短編作家ケレットのエッセイで、息子が誕生してから父の死までの七年間を綴っている。数ページの中に家族の日常からシュールな話まで。生や死、政治や宗教などの重いテーマもユーモアを交えた語りで、予期せぬ方向に展開してゆく。何よりの魅力は、話が面白いということ。声に出して笑ったり、勇気づけられてぐっときたり。読んだ後に、前向きで温かい気持ちになれて、今の私はとても救われました。（寄稿：ふるかわ）

▼沖縄に想いをはせる▼

『宝島』真藤順丈著 講談社 2018年

戦後の米統治下の沖縄、混沌と騒擾の基地の街に生きる若者達の青春を、臨場感溢れるウチナーグチ（沖縄語）で語った長編。戦果アギアーの英雄の突然の失踪、残された幼馴染 3 人は事件や騒動に翻弄されながら、それぞれの道を選択していく。単にエンターテイメント

というばかりではなく、ゴザ騒動などの実話も交え、基地という異物を今も抱える沖縄の苦悩を私達に突きつける。自肅の今、小説を通して沖縄を知るキッカケとなる。(寄稿：字縮生)

▼沖縄の実情を知ってください▼

『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること 沖縄・米軍基地観光ガイド』写真／須田慎太郎 文／矢部宏治 監修／前泊博盛 書籍情報社 2011年

今年のダーク・ツーリズムのゼミ合宿は沖縄だと伺い、この本を入手した。米軍専用施設の74%が、日本の国土のわずか0.6%の沖縄に集中。独立国であるはずの日本の沖縄に約2,700人も他の国の軍隊が駐留する。分断支配される日本。日本国憲法の生い立ちも日米関係も「安保条約」も正確に把握している日本人は、私を含め少ないのではないか？それらが凝縮されているのが沖縄。ページ数のほぼ半分を写真で埋め、全基地を紹介。憲法記念日を含む連休に読んでみてはいかが。(寄稿：小林)

▼鳥好きの私が選んだ『赤い鳥』を巡る話▼

『赤い鳥翔んだ 鈴木すずと父三重吉』脇坂み著 小峰書店 2007年

『赤い鳥』を知っていますか？目白の地で、鈴木三重吉によって、日本で最初の子供のための文学的な童話と童謡の雑誌として創刊されました。ですから、この本を読めば、赤い鳥、三重吉、すず、100年前の目白の4つを一度に知ることができますよ。特に娘のすずの人生は波乱万丈で、その生き方に拍手を送りたくなること請け合いです。(寄稿：ハナコ)

▼ジワリときます…▼

『ハリー・ポッターと賢者の石』J.K.ローリング著 松岡佑子訳 静山社 1999年

ミレニアムと言われていた20年前、親子で夢中で読んだ「ハリー・ポッターシリーズ」。11歳でホグワーツ魔術学校へ入学し、死の魔法を浴びながら強く生き抜くハリーの7年にわたる冒険物語。作者は7巻の最終章から書き始め、プロットをしっかりと組み立てている。現在の異常事態からの逃避かもしれないが、ファンタジーは「友情と勇気」「命の大切さ」を再認識させてくれる。(寄稿：つじ)

▼子どもと一緒に読みたい！▼

『NO. 6 (ナンバーシックス)』あさのあつこ著 講談社 2006年

外出自肅で、家族と一緒にいる滅多とない機会に、同じ本の回し読みはいかがだろうか。

『NO. 6』全6巻は、近未来の理想都市を舞台に2人の少年の運命が交差するSF小説である。管理される社会、あつという間に壊される日常、激烈な変化。著者は児童文学作家。熟年層には、著者の破滅から生きる希望へのメッセージが、直球過ぎて眩しいかもしれない。だが、今は、素直に作品を受け止め、共感したい気分である。(寄稿：gaako)

▼子どもも大人も夢中になるファンタジー▼

『精霊の守り人』上橋菜穂子著 新潮文庫 2007年

吊り橋から落ちた皇子をとっさに助けてしまった為に、皇子の用心棒を引き受けることになってしまい…。「人の生きようとする力、命を守ろうとする力がどのようなものなのか」、また、「非常時における心の芯の強さがいかに大切なものなのか」を、女用心棒バルサやタンダ、チャグムなどの主人公たちが教えてくれる物語。「精霊の守り人」をはじめとする「守り人シリーズ」は、心に優しく、しかし芯のある大切な感情を残してくれます。(寄稿：たけ)

▼絵本だけど…絵本ではない▼

『繪本平家物語』安野光雅著 講談社 1996年

絵本作家、画家、装丁家である安野光雅が80歳で出版した大人の絵本。挿絵画79点は安野が現地を訪ね作成。屋島・那須与一<薄暮の海の中、馬上で呆然と彼方の扇を見つめる与一>の挿絵画は、波音の静寂と与一の請願姿が美しい。「諸行無常の響きあり」で始まる物語だが、挿絵画の解説として物語を読むのも面白い。(寄稿：マナビト特派員N)

▼読み比べを楽しむ▼

『おおきな木』ジェル シルブアスタン著 本田錦一郎訳 篠崎書林 1976年、

『おおきな木』ジェル シルブアスタン著、村上春樹訳 あすなる書房 2010年

大きなりんごの木の下で、少年はかくれんぼしたり、木登りしたりして遊びます。少年と木は、仲良し、木は幸せでした。やがて成長した少年は木と遊ばなくなり、おねだりばかりしますが、木は喜んで願いを叶えてあげます。全てを与えつくし、切り株だけになった木に年老いた元少年は座っています。それでも木は幸せでした。黒一色のシンプルな絵、優しい言葉、これは大人の絵本です。読むたびに考えさせられる、魅力溢れる作品。(寄稿：クウチャン)

▼世界中で愛される絵本▼

『あおくんときいろちゃん』 レオ・レオーニ著／イラスト 藤田圭雄訳 至光社 1967年

コロナ禍、みなさま、いかがお過ごしですか。家族とそしてお子さまと過ごす時間が増えた方も多いのではないのでしょうか。レオ・レオーニ（1910～1999）オランダ生まれのユダヤ人、第二次世界大戦中にアメリカに亡命。1959年にお孫さんにお話する中から生まれたのがこの絵本。見える世界が変わる本、ときどきひらいてぼんやりながめてください。きょうはどのようなせかいがみえましたか。ほどよい時をあなたに。一家に一冊、常備本。
(寄稿：kazukazu)

紹介した本は、「私にとって、夢や希望を与えてくれた。」「今、この時代・社会にとっての意義のある本だから。」など、取り上げた理由はさまざまですが、手にとったあなたにもじわっと感動をもたらすでしょう。

引き続き感染症予防対策に努めて、【今できる学びを、そして次の学びに向けて】、お過ごしください。

令和2年度としまコミュニティ大学マナビト生の募集の中止について

マナビト生の募集は開講未定のため、今年度は行っておりません。
希望されていた皆様には、大変ご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご理解の程よろしくお願ひ申し上げます。

今回の発行は、2020年6月25日です。

発行：豊島区 学習・スポーツ課 生涯学習グループ
<http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/shogai/kyodokoza/index.html>

としまコミュニティ大学事務局

住所：〒171-8422 豊島区南池袋2丁目45番1号
電話:03-4566-2762（平日午前8時30分～午後5時15分）
ファクス:03-3981-1577
Eメール: A0014606@city.toshima.lg.jp

■豊島区内で開催されている講座の情報は「講座ほっとニュース」で！

としまコミュニティ大学ニュースとあわせて登録してみてもいかがでしょうか。

登録は「豊島区ホームページ」からどうぞ。

※メールの配信停止を希望される方は、豊島区公式ホームページの「メールマガジン配信停止」から配信停止の手続きを行ってください。

アドレス：<https://www.city.toshima.lg.jp/kuse/koho/007058/033605.html>

Copyright(C) 豊島区 All right reserved

掲載記事の無断転載を固く禁じます。

※利用者情報の変更・解除はコチラ

<https://service.sugumail.com/toshima/m/u/i/650ef80db0d1371d42806f88d2fb0732>